

埼玉育ちのグローバル人

～アクティブで行こう！な私の生きる道～

第1回「行動力こそがすべて

～国際的な視野を持ったきっかけ～

英語講師 芝田 絵梨佳



埼玉県マスコット「コバトン」



皆様、こんにちは。私は今年の一月に南米にあるボリビアという国から帰国しました。その国で一年ほどある活動をしておりまして。そのお話は、また後ほどさせて頂くこととして、私の自己紹介からします。



今年の一月に帰国した時の様子

<自己紹介>

私は芝田絵梨佳と申します。大工の父と専業主婦の母、そして姉の四大家族で育ちました。父も母も新婚旅行でしか海外に行ったことのないような一般的な家庭に育ちました。私の性格は一言で言うと、アクティブです。思い立ったらすぐ行動！というタイプです。家族の中には私のような性格の人はおらず、どうして私がこのように育ったか家族皆、首を

かしげるほどです。私は行動力のある自分が気に入っています。この行動力で様々なことにチャレンジしてきましたので、このエッセイを皆さんに発信して、何か参考になることがあれば良いなと思います。

<幼少期のころに得た様々な刺激>

私は、旧浦和市に生まれ、高校生活の半分までそこで育ちました。当時住んでいた、亡き祖父の建てたアパートには彼の会社に勤めるフィリピン国籍の労働者が多く住んでおり、他にも外国人居住者を受け入れていました。目の前のアパートには日本に出稼ぎに来ていたブラジル国籍の家族が住んでいて、今考えると住んでいた環境は国際色豊かでした。私が小学生のころは、そのブラジル人の子供と、窓越しでよく遊んでいました。その時の記憶は今でもはっきりと覚えています。その子供は、カルロスという5歳くらいの男の子でした。彼は日本語があまり話せず、私が彼の家の近くを通ると「トモダーチ、トモダーチ！」と、私に向かって叫んでいたのを思い出します。私は彼の家族とは接点がありませんでしたが、カルロスとだけは親の目を盗んでよく遊んでいました。その時から、外国人に偏見をいただくことなく接することができていたように思います。それは、ある人がお手本になっています。そのある人とは、私の叔父です。彼は外国人とコミュニケーションをとることが非常に上手い人でした。亡き祖父の会社を継いだ叔父は、フィリピン国籍の労働者との会話を、フィリピンの言語のタガログ語でします。その光景を幼い

ころから見ていた私は、日本語以外で意思疎通できることがとてもかっこよく感じました。何を言っても笑っているのだろう、何の話をしているのだろう、と想像を掻き立てられました。私は、そんな叔父にとっても憧れていました。



とても優しいフィリピン国籍の労働者達

更に私の「外国」に対する憧れが強くなったきっかけがあります。それは、私の通っていた小学校の同級生に帰国子女の友達がいたことです。彼女は、英語を話し、聞く音楽や、見る映画も他の友達とは違いとても魅力的でした。彼女に憧れ、私も英語を勉強したいなど思っていた矢先、人生の転機が訪れました。

小学五年生の頃、仲の良かった友達が英語の習い事をし始めると聞いて、私も一緒に通い始めたのです。英語を習い始めた年のクリスマスプレゼントには、ずっと欲しかったマライア・キャリーのCDと帰国子女の友達が好きだったブリトニー・スピアーズのCDを父に買ってもらいました。それから、洋楽や洋画を手取るようになり、どんどん英語が好きになっていきました。当時放送されていた子供向けの海外のドラマやセサミストリートなどは、自ら音声を英語にして観るようにしていました。

中学に入り、部活の関係で英語の習い事は辞めましたが、二年程英語を勉強していたこともあり、学校での英語は一度習ったことが全

て頭にすんなり入ってきました。中学三年間で英語の成績が一番良く、高校も英語をたくさん勉強ができる学校を選びました。

〈充実した高校生活〉

中学卒業後、私が選んだ高校は埼玉県立南稜高校でした。その学校の決め手となった点が二つあります。それは、英語の勉強がもっとしたい私にとってベストな、外国語学科があったこと。もう一点は、女子サッカー部があったことです。外国語学科入学後、迷わず女子サッカー部に入部しました。その頃私は、部活をしながら高校近くのNOVAに通わせてもらい、英語の勉強を更に続けていました。高校二年生になると、外国語学科では第二外国語を勉強し始めます。選択できる言語は、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語でしたが、私が選んだのはスペイン語でした。その理由は、当時テレビでイタリアについてやっており、本当はイタリア語に興味を持っていたのですが、選択肢にはないため、やむを得ずイタリア語に似ているスペイン語を選んだだけのことでした。後にこの選択が私の人生に大いに役立ってきます。

〈初めての海外渡航〉

高校二年生の夏休みには、オーストラリアにある姉妹校へ語学留学し、ホームステイ&ファームステイをしました。期間は二週間と短く、あっという間に楽しい時間は過ぎました。オーストラリアは季節が逆で肌寒く、日本の夏の暑さが苦手な私には冬にエスケープできたような感覚でした。初めての海外渡航だったため、色々とカルチャーショックはありましたが一番覚えていることは、ホストマザーが準備してくれたお弁当にキウイが丸々一つ入っていて、食べ方が分からなかったことです。日本ではキウイはカットしてあるか、皮付きのまま半分に切ってスプーンで食べるので、その時は本当に困りましたが、何とか皮を剥いてかじって食べました。

ホストファミリーは優しくて、本当に楽しいホームステイでした。

ファームステイでも素敵な家族に恵まれ、朝の牛の乳しぼりや、他国籍のルームメイトとの交流があり、たくさんの刺激を受け日本に

帰国しました。この経験をさせてくれた親に感謝します。



ホストファミリーと海へ行った時の写真

その後のストーリーは次回に続きます。
女子サッカー部、第二外国語としてのスペイン語の勉強、その先の進路について盛りだくさんです！